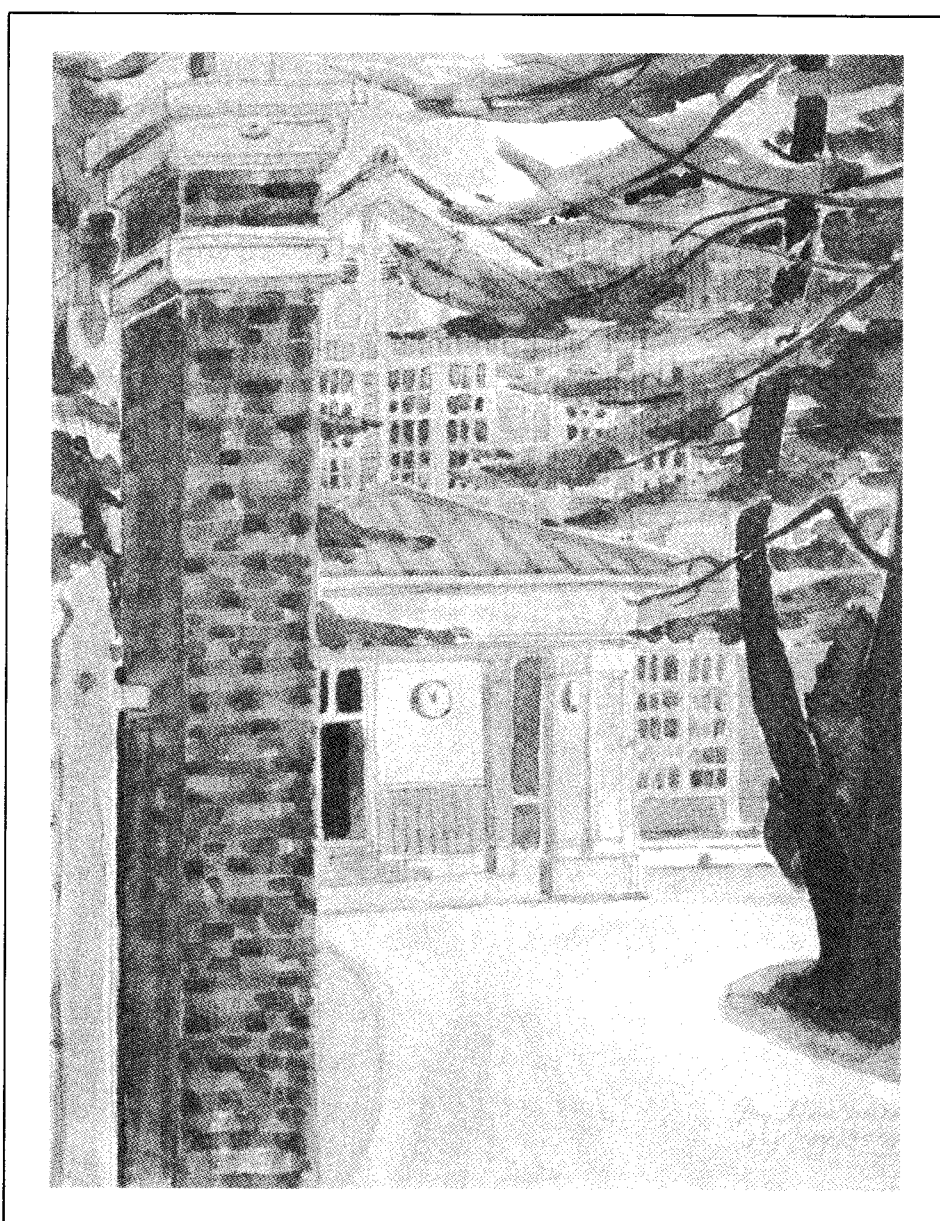


臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成2年新春号



新年のごあいさつ



東京支部長 佐 伯 益 一

同窓並びに学校関係の皆様、あけまして おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。……と、こゝまで書いてきて、ハタと筆が止まってしまった。実は、この原稿を書いているのが、まだ元年の12月初旬であるからである。これからの師走の工事現場の修羅を思うと仲々気が進まぬが、敢えて筆を進める事とする。……

まず89年を回顧してみますと、昭和天皇のご崩御による平成改元の昨年は誠に大騒ぎの年で、リクルート疑惑、パチンコ問題、（私はこれをバリー疑惑と呼びたい）消費税の導入及び廃止論争、マドンナ旋風、ベトナム難民、円高円安、日米通商摩擦、幼女誘拐殺人等々、数えればキリが無い程で、又一年間に3回も首相の名前が記録され、この先、まだどうなるか分らないという状態で正に多事多難としか言いようのない年でありました。

平成2年こそは何か平穏無事の年であるようにと願うわけですが衆院選挙も控え、まだまだ波瀾の起きるような気がいたします。

この中であって私共松高同窓の皆様には各自夫々の分野に於てご活躍されておられるわけではありますが、時流に阿ねず、流されず、健康で明るく本年も頑張つて欲しい処であります。

さて、平成元年度の母校新入生が70名の定員割れであった事には驚いております。学力低下も心配ですし、進学の問題、スポーツ、部活の問題もあるでしょう。然し、

進学の問題ばかりでなく、立派な社会人を啓成する基礎を作るのも大切な学校教育であると考えます。本部会報「松城」第四号も読ませて頂きましたが、母校後援会も出来ました。母校活性化のため多くの施策も講ぜられていると聞きました。創立80周年記念も明年に控えております。この際、是非共、全教職員、同窓生一体となって緊樺一番（女性にはガードルを）由緒ある昔の松高に戻し、伝統ある松城精神を発揮するよう、お互いに協力し合い、頑張つてゆきたいものと念願しております。

最後になりましたが、昨年は皆様に大変お世話になりました。又御協力有難うございました。支部役員には本年も又、何かと御無理をお願いする事、多々あると存じますが何卒よろしく御協力の程お願い致しまして相も変らぬ駄文ですが新年のご挨拶に代えます。

本年度の支部大会には是非御出席下さるよう重ねてお願い申し上げます。

御健康と御多幸を祈ります。

◎ これだけは知って頂きたい

同窓会東京支部の大会が毎年6月に開催されることが略々定着化しているが、正に村松の緑を思い出させるこの時期が年間を通じて一番適当な頃であると思われる。

年々歳々支部の大会が盛大になりつゝあり、出席者の皆さんから感謝されている事を思えば我々役員一同、本当にやりがいがあったなあ、と大きな喜びを感じている。

（表紙について）

旧校舍解体直前に校門より正面玄関を望む（1977年）

作 者 鶴巻 齊氏（1928年村松町生）

略 歴 旧中32回卒、新潟第一師範学校卒、県美術会員
新作家協会展3回入選、県展7回入選

大会を成功させるために役員各位にはいろいろとご尽力を願っているが、ここで所謂、縁の下力持ちの存在を是非共皆さんに知って頂きたく大会当日までの経緯を述べてみたい。

先ず東京支部では大会開催日の3ヶ月位前から準備に入るが会報に予告する必要上段々とその時期が早やまって来ている。最初に決めなければならぬ事は日時と会場であるが、本部総会のように会則で決っていれば問題ないが土曜日午後開催というのが略々決った。これは土曜休日、高令者の出席、遠方よりの出席者の帰りの時間の都合等々を考慮したものである。

次に会場の決定であるがこれが一番頭を悩ます問題である。会場を決める条件を挙げてみると

- ① 交通の便が良いこと。
- ② 100人以上収容出来るホールがあること。
- ③ 経費が安く、無理をきいて貰えること。

等であるが僅かこの三つの条件を満たす事は簡単なようでも仲々に難かしい。それに「毎年々々同じ会場では……」という声もあるし、東京中のホテル、会館の中から見聞を広めるとい意味も込めて物色するわけであるから幹事も頭を痛める。候補が2～3、挙げれば事前調査を行うが会場が決定すれば二度三度と打合せに行く。この費用もバカにならぬ。交通費、食費等何れも幹事の負担である。

以上が決定すると愈々案内状の発送となるが出来るだ

け多くの人に出席して貰うためには文章にも念を入れねばならず、往復ハガキでは紙面が不足、従って返信ハガキ同封の手紙となる。始めは1,000通位発送していたが居所不明、返事なしで出席は100名位、最近では名簿を整理し且つ実績等を考慮して450通位発送しているがそれでも出席返事は120名位、欠席返事は300名位であり通信費のロスを痛感する。返事がくるたびに選挙の開票ではないが一喜一憂の状態である。止むを得ぬ欠席は了解出来るとしても、同じ欠席でも何か一言記入して頂ければ心が救われる。中にはオレも出席したいのだが通知がないから出席しないという向きもあると聞かむと広い見を持って頂ければと思う。

さて大会当日ではあるが幹事は定刻3時間位前から参集し、会場の諸準備に入る。夫々、役割を分担し大会を進行させるがゆっくり腰を落付けて飲むひまも無い。最後はお決りのシャン、シャン、シャン、で幕を閉じるわけであるが、その後は会費の計算、支払い等の仕事が残っている。最近では色々多額の寄付金を頂くようになったが、これは大変有難い事であり、幹事の苦勞が理解されてきた証左であろうと考える。

以上長々と述べてきたが、要は出来るだけ多くの同窓に出席して頂きその歓談の中から何かをつかみ取って頂きたいという願望に他ならないからである。同窓の堅いきずなを基として同窓個々の発展と母校の振興を願うや切である。

平成元年度東京支部大会は6月3日、羽沢ガーデン（広尾）で、出席者114名をかぞえ、盛大に開催した。

平成元年度支部大会は、会場を一度は屋外でという会員の方々の希望を実現させようと渋谷区広尾の羽沢ガーデンで開催した。

雨の多い季節のため当日の天候を心配したが幸にも快晴に恵まれ、生ビールを飲みながらなつかしい旧友との語らいのひとときは誠に有意義であった。今回は母校から関谷先生のご協力を得て、村松高校ブラスバンド部による演奏で大会に華をそえ出席者から好評をいただいた。関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

大会プログラムは、会報7号「平成元年度支部大会号」

に掲載してありますので割愛いたします。当日出席者の中で、77歳以上の四名の方々に、支部の発展にご尽力を賜わったお礼と、ご健康をお祝いして記念品を贈呈した。

出席高令者（77歳以上）敬称略

長野武夫（旧中3回卒） 川瀬五郎（旧中11回卒）

渡辺文男（旧中12回卒） 横山信夫（旧中15回卒）

尚、大会の運営に当った支部役員及び会員の方々から寄付金、景品寄贈をいただきありがとうございました。

◎ 平成元年度東京支部大会出席者 (114名)

旧中の部 (28名)

長野武夫, 川瀬五郎, 渡辺文男, 横山信夫, 佐久間精一, 横松宏平, 亀嶋 謙, 中村倉吉, 茂野宏一, 芳原英男, 堀 哲二, 武藤三郎, 福原平八郎, 中野 博, 西山莊平, 佐伯益一, 佐原 博, 斉藤朝之, 松尾 貢, 伊藤勇五, 芳賀健一, 斉藤和男, 中村雅明, 金子 宏, 加藤三代太, 佐藤豊夫, 五十嵐一郎, 関八十一

旧高女の部 (7名)

内田道子, 鈴木節子, 田村ミツエ, 岡本和子, 小林早月, 一氏愛子, 佐藤玲子

高校男子の部 (49名)

土田 猛, 篠川恒夫, 渡辺八郎, 関 孝世, 瀬倉武志, 岩城 弘, 大江佳一, 鈴木多喜男, 弦巻 等, 鈴木政治, 新井康夫, 酒井俊昭, 熊倉芳夫, 佐久間英輔, 五十嵐健, 沢出起允, 八木又一郎, 堀 直昭, 関塚 豪, 伊藤 馥, 山崎輝雄, 塚田 勝, 関 和世, 石黒四郎, 鶴巻 浩,

高岡雄三, 宮沢正由, 大橋貞夫, 田代信男, 中村雅臣, 近藤洋輝, 武藤正昭, 斉藤 守, 宮崎信次, 吉井 清, 笠原 久, 今井英雄, 斉藤三郎, 鈴木輝雄, 佐藤匡秀, 高地 彰, 今井 正, 大島惣四郎, 石本良郎, 関谷雄二, 岡村嘉志, 稲毛越郎, 梶屋庄佑, 鈴木健司

高校女子の部 (25名)

白石キヨ, 深見洋子, 片柳ムツ, 山西愈佐子, 木村孝子, 稲垣美知枝, 岡部ユキ, 真水道子, 飯利 幸, 小島典子, 斉木明子, 由良美智子, 飯島玲子, 鈴木則子, 西山春子, 加藤美智子, 杉山和子, 梅沢カツ, 渡辺厚子, 正木芙美子, 中村俊枝, 久我マキ, 遠藤村子, 山田幸子, 中島和子

本部関係 (5名)

茂野敏郎, 渡辺建夫, 酒井邦男, 関谷正中, 広井基良 (女子生徒11名)

◎ 6月3日支部大会における寄付者氏名

(敬称略, 単位千円, 順不同) 合計 99,000 円

川瀬五郎 5, 渡辺文男 10, 横松宏平 2, 亀嶋 謙 10, 茂野宏一 9, 武藤三郎 2, 福原平八郎 2, 佐伯益一 2, 松尾 貢 3, 伊藤勇五 2, 芳賀健一 2, 金子 宏 2, 加

藤三代太 2, 佐藤豊夫 2, 関塚 豪 2, 山崎輝雄 5, 関和世 5, 吉井 清 5, 今井英雄 7, 岡本和子 3, 岡部ユキ 10, 菅家塔子 7 以上22名

◎ 5/13 幹事会決議による特別寄付金拠出者 氏名 (31名) 合計 195,000 円

◎ 10,000 円 中村倉吉, 佐伯益一, 伊藤勇五, 斉藤和男, 鈴木多喜男, 塚田 勝, 中村雅明, 岡本和子,

◎ 5,000 円 堀 哲二, 芳賀健一, 篠川恒夫, 渡辺八郎, 関 孝世, 大江佳一, 佐久間英輔, 八木又一郎, 沢出起

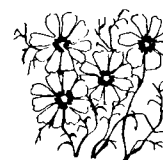
允, 築取錦二, 堀 直昭, 石黒四郎, 大橋貞夫, 鶴巻浩, 田代信雄, 中村雅臣, 小林早月, 深見洋子, 木村孝子, 片柳ムツ, 小西愈佐子, 真水道子, 寺山征子 以上。

平成元年度 支部大会収支決算書

6月3日羽沢ガーデン

収 入 の 部		男子 77 @ 8,000
大会々費	840,000	女子 32 @ 7,000
祝 儀	60,000	会長 10,000
寄 付 金	294,000	本部 50,000
雑 支 入	9,000	別 掲
		テレホンカード, 写真
小 計	1,203,000	
年 会 費	108,000	当日受付 36 人分
小 計	108,000	
合 計	1,311,000	

支 出 の 部		羽沢ガーデン払
大 会 費	655,716	
謝 礼	107,000	ブラスバンド
記 念 品	32,860	高齢者慶祝, 他
通 信 費	47,365	大会案内, 他
雑 費	81,847	大会準備, 会議費, 雑品
小 計	924,788	
合 計	924,788	
差引残高	386,212	





出席高齢者への記念品贈呈、左から長野、川瀬、渡辺、横山の各先輩



母校ブラスバンド部員の熱演



閉会の手ノめは賑やかに

◎ 抽籤会景品寄贈者氏名（順不同、敬称略）

佐伯益一、中村倉吉、佐久間英輔、塚田 勝、大橋貞夫、小林早月、沢出越允、伊藤勇五、斉藤和男、田代信雄、真水道子、岡本和子、渡辺八郎、関 和世、中村雅明、加藤三代太、関谷雄三、斉藤三郎、渡辺文男、岡部マキ、遠藤村子、鈴木則子、山崎輝雄、福原平八郎、内田道子、芳賀健一、斉藤朝之（27名）

ありがとうございました。受付混雑のため記載洩れがあるかも知れませんが悪しからず御諒承下さい。

ちょっと良い話

六月三日、東京支部大会当日、羽沢ガーデンの入口で案内をしていて感じた事。

会場へおいでになる先輩の皆さんが、とても良いお顔ををしていらっしゃるのです。物腰、風貌共に気品があり、立派なのです。昔日の母校の智的、精神的レベルの高さを見せていただいた、と思いました。当日、最も嬉しく思った事のひとつです。

<会報部>

お便りの中から

平成元年度同窓会東京支部大会の出席者から多くの礼状や電話をいただいておりますが、この中から心温まるお便りのかずかずを紹介させていただきます。

(一)

冠省、このたびは御支部同窓会のお招きに与り貴台をはじめ多くの同窓各位から心温まる御芳情を賜り有難く感謝とお礼を申しあげます。各地から御参集の百余名の同窓各位が夏空の下に楽しく相集う光景は素晴らしく、私自身も感動を覚えました。これも貴台の御盡力の賜ものと深甚なる敬意を表します。

貴台の御光臨をお待ち申し上げ寸楮にてお礼といたします。敬具
学校長 渡邊達夫

(二)

めまぐるしい気候の変動と世相の動きに翻弄され慌しく過ぎ去った夏でした。

内憂外患、政財界も多事多難、之からの波瀾万丈の前途が憂慮されます。御無沙汰致しておりますが御壮健ですか、小生も元気で益々盛ん、青春再来の感です。

ところで、過ぐる六月の同窓会はまことに楽しいものでした。会場で右顧左 顧するも知らない諸賢ばかりで「これはえらい所に来てしまったワイ」と嘆息しましたが気をとり直し、この人達も皆、臥竜が丘のあの校舎、美しい環境の中で過ごした同志かと思うと俄かに雑愛の情を感じ、はのほのとした気分になりました。

ブラスバンドの迫力のある生演奏、就中、旧校歌演奏の時は感激で身震いを覚えました。茂野町長のなつかしい村松弁での祝辞、五十年前の大手通りあたりに引き戻された感じでした。写真あまり良いものがありませんでしたが一枚同封いたしました。又、来年の再会を楽しみにしております。(8月10日) 福原平八郎(旧中26回)

(三)

拝啓、先日は盛大なる東京支部大会にお招きにあづかり誠に有難うございました。又帰りにはお土産まで頂戴し恐縮しております。

又、生徒と2日間共に過ごし彼等の喜びもはかり知れないものがありました。厚く御礼申しあげます。毎年の母校総会に理事の方々ならびに出席者と現実の姿にギャップがあることを深く感じておりました。校長が現況説

明をやられる事がそれにも限界があります。そこで現物を見て頂くしかあるまい。

スポーツは無理、文化クラブからダンスと、吹奏楽部に目をつけ、関谷先生に出演を要請したところ快諾を得、昨年の演奏となりました。出席者、特にお年を召した理事の方々の顔は演奏が始まると同時に柔和になり古い昔を懐古され、又涙さえ見えました。これは本当に予期せぬ喜びで私の身体はそくそくいたしました。ホンの思いつきがこんな大きな成果を生むとは……。席上佐伯様より生徒にプレゼントまで頂き喜びは絶頂に達しました。

毎年演奏をお願いしようと思いました。そして本年大東京で演奏することになったのです。吹奏楽部にも問題は山積してましたのに関谷先生は「やりましょう」と言って下さいました。人数、技術、費用等々大変な事が分ってただけに彼の勇氣ある決断に驚き自分も揮をしめ直さねばと思いました。

しかし短期間の練習にもかかわらず生徒はやりました。新世代の彼等は憶することなく、十二分に実力を発揮してくれました。又々、大成功だったと思っております。

皆様の拝厚志、特に幹事の方々の熱意ある10万円もの多額のカンパと聞き、一同ほんとに頭の下がる思いがあります。又、素晴らしい宿を提供頂いた塚田様、生徒は初めての経験に快適至極の一夜を送ることが出来ました。氏の恩恵にすっかり甘えた形になりましたがくれぐれも宜しくお伝え下さい。2日間生徒と共に行動いたしました。よい思い出になることは間違いありません。

「東京支部は、いつも母校の先を歩かれる」と茂野会長が申されました。事実であり暫くは後塵を拝させていただきます。何卒よろしく御先導下さいませようお願い申し上げます。

この度の皆様の温情に報ゆるべく生徒も益々頑張ってくれることでしょうし我々も教師も一生懸命やりたいと存じます。支部の幹事の皆様に呉々もよろしくお伝え下さいますようお願いいたします。

6月6日 村松高校 酒井邦男（高5回卒）

（四）

日頃何かと同窓会のためお骨折り頂き誠に有難くご苦
労様です。又このたび沢山の記念の写真ご送付下され有
難うございました。良い思い出になります。6月14日には
渡辺さんの勝浦に小田、亀嶋両氏と一緒に邪魔し、
一泊ゴルフを東急GCで楽しみました。

同窓とは良いものです。お陰様で小生元気で毎日何や
彼やと過しています。何れ又次回にお会いした節に。

横山信夫（旧中15回）

（五）

謹啓、このたびは吹奏楽部の生徒共々に、大勢をお招
き頂き、まことに有難うございました。承われば幹事、
役員の方々の拠金によりますとの事、このご厚誼にお応
え出来るような内容を持ち合わせず甚だ恐縮かつ申し訳
ございませんでした。楽器を手にしたばかりの者が大半
で、まったくお粗末の限りでしたが、お集りの皆様から
は暖かく、また励ましをもってお迎え頂き、ほんとに有
難うございました。彼女たちは、この日のために早朝、
また放課後を懸命に練習はしてきましたが、やっと音が
出たばかり、しかもヒトさまの前に立つのは始めてとい
う子も多く、すっかり緊張してまちがってばかりおりました。
しかし田舎の学校の中に居るだけではさっぱり見
えてこない世間を垣間見て、遠いと思っていた先輩諸氏の
暖いご声援に目の当り接することが出来てほんとに得
がたい体験をさせて頂きました。外へ出てみて始めて自
分達のやっていることに誇りのようなものも感じとって
来たようでもあります。

総じて現今の松高生は力と意欲に乏しく、学習や部活
にも落ちこみが激しいと言っておりますが、何と言おう
と昔から変らぬ土地の子女たちなのです。たゞ、大戦後
の大衆化した社会において中等教育もその埒外にあった
わけではないということなのです。いろいろな家庭、い
ろいろな育ち方をしている子も多いですが、どの子も素
朴な個性と本人も気づかぬような不思議な素質と能力を
秘めています。村松高校でと言ってやって来る生徒があ
れば少しでも多くの芽をその中から伸ばし、育てるべく
本校職員たちも腐心をしています。

過去20年あまりの吹奏楽部卒業生の姿を見ております
と「あゝ良かったな、教育とは、やはりこういうものな

のかな」と逆に教えられることが多くあります。とにか
く人間を育てるには、ことに現在の松高のような場合、
時間と根気、細やかな愛情がいります。そしてどこかへ
出かけよう、生徒を連れ出そう、また何かまとまったも
のを整え、まとまったことを行おうとすれば必ず大きな
資金がいるということです。

このたびはたとえ僅かな時間であっても、如実に接し、
触れあう貴重な機会でありました。先輩諸氏にはいっそ
うご壮健にて精励あらせられますと共に母校の微力な後
輩たちの活動と成長に、より深くご理解とご支援を賜り
ますよう心からお願い申し上げます。

ほんとに有難うございました。

幹事役員の方々にも大変お世話様でした。お会いの機
会によろしくお伝え下さいますようお願いあげます。

6月6日 村松高校 関谷正中（高6回卒）

（六）

本日はご丁寧なお手紙とともに、すばらしい出来栄え
のスナップをご恵贈賜り誠にありがとうございました。
私とは違いますが腕のいいカメラマンで大いに刺激を
受けております。私の不出来なスナップをそれぞれにお
送りさせて頂いておりますが、先輩、後輩の皆様からお
便りを下さいまして「広げよう松高同窓会の輪」の支部
長さんのモットーが順次実りつつあることを身近かに実
感させて頂いております。幹事の皆様のご苦勞も、さぞ
大変なことだろうと拝察致しておりますが年を追って盛
大になることを期待し楽しみにしております。何卒今後
共くれぐれもよろしくご指導ご交誼のほどお願い申し上
げます。

武藤三郎（旧中26回）

（七）

ご鄭重なお便りを頂戴して有難く深く感謝して御礼を
申し上げます。厳しい暑さが続いておりますが、いよいよ
御健勝で御活躍のことをお慶び申し上げます。いつもお
世話になり御厚情を賜わり有難うございます。

長い教職生活を退いてからお医者様のお世話になりな
がら健康管理に励んでいるところであります。

支部大会は残念ながら出席出来ませんでしたことを相
済まなく思っています。

老化現象を克服したいもっと頑張っているところですが、
なかなか思うようにまいりませんが、今後ガンバリ
たいと思っております。 村田泰次郎（旧中14回卒）

平成元年度会費納入者氏名

[illegible]

計 148 名（敬称略順不同）元・10・20現在

村松高等学校同窓会本部大会に出席して

平成元年 8 月 17 日

平成元年度の本部総会は、残炎去りやらぬ中、村松町「明月」に於て行われました。東京支部から佐伯支部長以下、川瀬、中村、伊藤、鈴木、佐久間、鶴巻、深見の8名で参加致しました。東京からと言う事で暖かく迎えられましたが、全体の出席者が少なく、又、女性が、カメラマン一人と、今年、大学に合格して本部より表彰された三人(一人欠席)だけと言うのはさびしくもあり、残

念に思いました。ですが今年、村松支部が発足した由、これからは、独自の活動も出来るでしょうし、動きも違って来る事でしょう。地元ならではのユニークな活動と発展を心から期待致します。尚、明月より二次会場“木村”へ席を移し、諸先輩と美酒をくみかわし又、後輩との語らい、と良い一日を過ごさせていただきました。

(深見洋子)



阿賀野川ラインの景勝地

き り ん 山 温 泉

ホテル 福 泉

磐越西線・津川駅・鹿瀬駅・下車バス10分
電話 02549-2-3131
(東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬)

蒲原鉄道の軌道（五）

——赤字に転落，借金苦の時代となる——

旧中 22 回 高地 寛

赤字に転落 五泉・村松・加茂と遂に念願であった 21.9 軒の鉄道線が全通した昭和 5 年は世界的にも、国内も大変な年であった。

ロンドンで日米英海軍軍縮会議，三国条約調印やら，ドル買いが盛んとなった。

9 月には，生糸が明治 29 年以来の安値に暴落し 10 月には，米価迄暴落し，東京・大阪の米穀取引も立合が停止となってしまった。

不況に困惑し，其の打開の為に，国を挙げて死に物狂えの努力をされて居るが，此の慢性的不況から何時脱出出来るかも判らない状態にあった。

昭和 5 年下期の株主は，667 名となって居るが，新株式の第 2 回目の払込金（1 株につき 5 円）の徴収を 9 月 27 日より 10 月 1 日迄とした払込みの通知書を発送して，鋭意払込を促したが予期の通り進まなかった。

加茂方面の延長線の運輸開始と共に，村松・五泉間の乗車賃を 2 割も低減した関係上，前年同期に比し旅客収入で 1,273 円 478 の減少，貨物収入に於いても 943 円 723 の減少となり，結局 2,217 円 201 も減小を見るに至った。

加茂・村松間は開業日浅く，所謂，第 2 の創業時にあるので，本線に対する政府補助金の認可は得られず苦境に入ってしまった。

加茂線の建設費は，出資が思うように進まず，借入金を以って対応したので，借入金は 881,000 円，鉄道財団抵当借入金は 175,000 円，当座の借越金は 16,484 円 53 となり，借入金の利子は 26,643 円 53 となってしまった。

収入金は 29,539 円 53，支出は 31,790 円 773 に借入金利子を加えて 58,433 円 853 にもなり 28,884 円 323 の欠損金を出すに至り，愈々，永い借金苦の営業が続く事となってしまった。

昭和 6 年 7 月の株主総会では 3 回迄の払込通知に対し，残額は 17,840 円で，払込みが遅々として進まず，延滞料の徴収もされている。

役員改選で愈々，茂野誠衛の義父である中野忠太郎の登場である。

「日本の石油王」と言われた巨匠，中野貫一翁の長男で設立者の地位継承の中野忠太郎が取締役社長に，茂野誠衛は専務取締役役に，常務取締役茂野弘作，取締役松尾名平，浅見鶴吉，伊藤文吉，石田友三郎を，監査役の補欠には水野真平，笠原正男を選任し強固な陣容を整えた。

創業常務の殉職 会社創業以来，常務取締役として常勤努力して来た茂野弘作氏が会社の補助金問題，其の他の要件を帯びて上京中，病を得て斃れられたのは昭和 7 年 5 月の事で，東京慶応病院で客死されてしまった。

加茂線延長工事の苦労と開通後の借金苦で，経済緩和の方法は，電力料金の通減と政府の補助金に依る外なく，鉄道省に対する陳情で寧日なき明け暮れであっただろう。

昭和 7 年 7 月 23 日の第 20 回定時株主総会で消極的な人件費の切り詰め，整理と諸事節約をした為多少の益金をみたのは，菲薄な待遇を受けて，過重な業務に堪えて勤勉する従業員の賜であると感謝して居る処であると述べられている。

会社自力の方法としては，営業成績をより以上に挙げて営業収入を以って会社の経常費を賄った上に，借入金利子の大部分を充たすか，未払込金を決行して借入金的大部分を返済して，支払利子を少なくする方法より外ないのであるが，今日の景気より 2 者共に望む事が出来ないで苦慮している。

電気料金は，6 月 1 万軒に相当する割引の承認を頂き，全国多数の競争会社の内より逆に入り，11 月より村松・七谷間の補助の認可があった。27 会社に認可となっている。政府の 758 万円の予算の分配で，全線補助は実現しなかったが，財界の好転を待って，株式の払込みも考慮して行き度いと訴えられている。

私が，常務になった昭和 49 年から，会社の存続は「鉄道・軌道整備法」に基付いて，地域的に存続の必要ある会社として，頑張った事からしても，其の労苦は数倍し

察するに余りあるものである。

常務を欠員のまゝとして、専務が常勤して社務に当り、支配人制を組み入れ、電気長も選任された。

未払込みの為、失権した株式に付いて競売が為され、新聞の公告に付いても多数紙に掲示したものを「新潟日報」1紙として経費節減を図った。

弔慰金に就いて審議されたが、他社に比し大変少額だが、株主に迷惑をかけている欠損続きの状態にあるのでと1,500円とされた程の苦しみであっただろう。

昭和7年は、私が小学校を卒業して旧制村松中学校に進学した年であったが、財界の不況は益々深刻を極め米価安の籾価下落は、農村を極度に疲弊させ、農村経済に依存する商業も萎靡不振であった。地元校でも、男子は

16名が進学したのみで、高等科から入る人も多かった。高等科にも行かれず、丁稚奉公に出るのが、殆んどで、女工哀史として未だに人々の涙を誘う悲劇も「昭和恐慌」期の深刻な此の頃であった。

上越線遂に全通 明治10年代、信越線が企画された頃、上越線敷設の事が図られて、中央への積極的な運動が展開されたが、「山が険しい難工事」との理由で、両3度計画が流れていた。

大正7年に、10ヶ年計画に依って上越線建設が決定し、名にしおう上越国境の峻峰を征服して、40年目にして漸く実現に漕ぎ付けたのである。

日本最長の清水トンネルなどの難工事を終えて、全通したのは昭和6年であった。（元蒲原鉄道常務取締役）

思い出の写真館

秘蔵写真をお貸し下さい

昭和13年9月22日行われた運動会から

（職員のボール転がし紅白競争）



松尾吉信（旧中25回）

茂野先生

石黒先生（教練）

北原先生（物・化）

教頭 田島先生（英）

高橋先生（地理）

松田先生（剣道）

後ろ姿は齊藤先生か？（国・漢）

向こう側の半身だけ
見えるのは西先生（英）

校長 那須先生（教）

中野先生（英・公民）

笠原先生（柔道）

藤崎先生（英）

早川先生（地・歴）

鈴木校長令夫人への送別会後の記念撮影
(昭和7年4月校長宅玄関前にて)



前列左から里見教諭夫人、茂野教諭夫人、岡島教頭夫人、鈴木校長夫人
味岡書記夫人、堀校医夫人、石黒中尉夫人、そのほか各教諭夫人

この写真の裏に「鈴木校長千葉県大多喜中学へ栄転に
付令夫人への送別会後の記念撮影」と、鉛筆で書いてあ
った。

第6代校長鈴木諒先生の村松中学における在任期間は、
大正14年4月から昭和7年3月までの7年間であった。

鈴木先生は、昭和7年4月13日に離任され、村松を去ら
れた。その数日前に、各教諭夫人方が校長官舎に集まり、
校長夫人の送別会が催された。そしてそれが終わってから、
玄関前で校長夫人を中心に記念撮影をした。すべて正装
の着物姿で写っているのがめずらしい。（斉藤朝之）

茂野町長令夫人を中心に華道門下生の記念撮影
(昭和7年夏ごろ茂野町長邸にて)



前列左から〇〇教諭夫人、斎藤、奈良教諭夫、子供、茂野町長夫人、子供、
岡島教頭夫人、そのほか教諭夫人と町内有志の方々

昭和7年当時、村松町長茂野誠衛氏（旧中第2回）の
令夫人は、華道の先生（「池坊」^{いけのぼう}の名取り）であった。

この写真は、昭和7年の夏ごろに、町長邸内の庭園の中
に建てられていた洋館の前で、先生を中心に門下生一同

を写したものである。

茂野誠衛町長夫人のお顔は、先日の羽沢ガーデンで隣に腰掛けていた茂野宏一氏（旧中24回）から茂野敏郎現町長さんに聞いて頂きましたところ、その通りですとの御回答を頂きました。茂野誠衛さんと茂野敏郎さんとは親戚の間柄とのことでありました。

この洋館は小生に見覚えがあります。小生が幼稚園か小学一年生の頃、母に連れられ、この町長邸に行って庭

園の中に建てられてあったすばらしい洋館を見て非常に驚いたことの記憶が今でも頭のすみに残っております。左側の子供は故茂野英介さん（旧中25回）らしいのですが（茂野宏一さんは英介さんに似ているナアと言われました。今一步、自信がありませんでしたので記事にはそのことにふれませんでした。

（斎藤朝之）

旧中第18回生徒5人の記念撮影
（昭和8年3月撮影）



金故	清故	見	阿	千
（東新子）	（広水）	（前横方）	（東物部）	（大代）
（渦）	（島林）	（東京支）	（京理廉）	（倉国）
（高公）	（高治）	（部高策）	（工学平）	（高一商）
（大校）	（師）	（長工）	（大校）	（商）

よき時代の女学生達、静かな城下町村松



私は古いアルバムを見るたびに、この写真の人物はいったいだれなのかと、戦後40年以上も思案し続けてきた。ところが、一作年古い臥龍誌を見つけたことにより、ようやくこの方々のお名前をつきとめることができた。私よりさらに10年も上の先輩であった。

「臥龍・第20号」に旧中第18回生徒の卒業写真と人名表とが合わせて掲載されており、この中から右^{えり}襟に大きな長方形のバッジをつけている清水林治氏と千代国一氏を探し当てた。拡大鏡により卒業写真に写っている小さな顔とこの写真の顔立ちとを見比べながら、該当の人物を特定することは、実に至難^{わざ}の業であった。

この写真について見方様におたずねしましたところ、昭和8年第18回卒業式の優等生紹介記念写真として、学校側の指示により村松町の近藤写真館で撮影したものと判明いたしました。

故 清水氏 戦前、朝鮮の学校に奉職中、病没

故 金子氏 戦後、福島日報の主幹として活躍、病没

（斎藤朝之）

外はひっそりと風花が舞い、“おゝひばりよ”を合唱する旧女第15回（昭和12年卒）のみなさん。

ピアノ伴奏は故菅家コウ先生。（昭和12年2月、音楽室にて。）

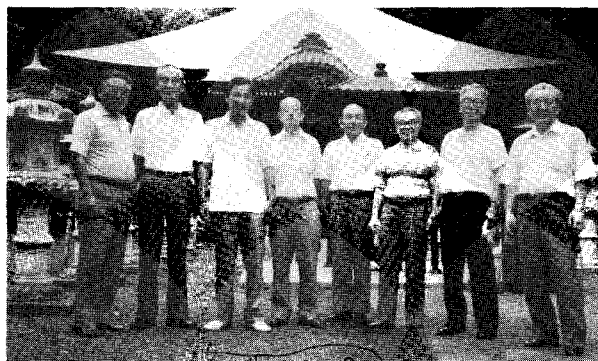
田中イシ（旧姓福原）さん提供。

〔クラス会便り〕

旧中27回卒（昭17年）の東京支部会員のクラス会が9月1日、厚木市飯山温泉、元湯旅館で一泊で開催された。出席者は8名、久しぶりのクラス会とあって芸者をあげての大騒ぎ、翌日は飯山観音に参拝後解散した。

写真は飯山観音前で、正に腹の出っ張り工合のコンクール。これが一番マジメな写真である。

（幹事、熊倉、中野）



同じく旧中27回のクラス会は10月27日、越後湯沢温泉、〃ホテル双葉〃で一泊で開催、東京、新潟、五泉、村松、津川、千葉、福島方面からの出席者16名でこれ又、大盛況であった。さすが、佐伯支部長を送り出しているクラスとあって動きは仲々活発である。

（幹事、二平一男）



〔ちょっと良い話〕

村松から出て行った人が、今日も一人、ひとときの里帰り。町並を見て、山を見て、小路を歩いて、ほんの小さな事にも感動し、懐かしみ、饒舌に、又黙々と歩いている。

私には、生まれた時から馴染んだ場所だから、あまりにもひたり過ぎた場所だから、私には何も見えない。

その懐かしがり様は、私の涙をさそう。でも本当は、そんな水々しい心で村松を見る事が出来ない私が、可哀そうなのかも知れない。

＜会報部＞

〔ちょっと良い話〕

本部総会での事。懇親会も終りに近づき、万才三唱の音頭とりを依頼された佐伯支部長が挨拶に立ちました。例の如くメリハリの利いた話の中で村松支部の発足を祝い〃村松も東京をどんどん追い越してゆくよう頑張って〃と言った所で〃そげんな事ァ当り前だァ〃とちょっと酔ったヤジ。すかさず支部長〃そんじゃお前さんが一番先に協力してゆかねばなんねんだァ〃と大声。これは効きました。さすがでした。

同窓会は卒業生全てのために。

（会報部）

— 支 部 大 会 予 告 —

平成2年度 東京支部大会は 6月16日（土）午後3時

上野不忍池畔

池之端文化センターにて開催いたします。

多くの皆様方の御出席をお願いいたします。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

岡 本 和 子 旧女二十五回卒	小 林 早 月 旧女二十五回卒	斉 藤 和 男 旧中三十四回卒	中 村 雅 明 旧中三十三回卒	芳 賀 健 一 旧中三十三回卒	伊 藤 勇 五 旧中三十三回卒	佐 伯 益 一 旧中二十七回卒	堀 哲 二 旧中二十四回卒	亀 嶋 謙 旧回二十二回卒	中 村 倉 吉 旧中二十二回卒
八 木 又 一 郎 高七回卒	沢 出 赳 允 高六回卒	佐 久 間 英 輔 高六回卒	大 江 佳 一 高四回卒	鈴 木 多 喜 男 高四回卒	渡 辺 八 郎 高三回卒	関 孝 世 高三回卒	今 井 正 高一回卒	青 木 猛 高一回卒	篠 川 恒 夫 高一回卒
真 水 道 子 高十回卒	大 橋 貞 夫 高十回卒	石 黒 四 郎 高九回卒	堀 直 昭 高八回卒	山 西 愈 佐 子 高八回卒	木 村 孝 子 高八回卒	片 柳 ム ツ 高八回卒	塚 田 勝 高八回卒	築 取 錦 二 高七回卒	深 見 洋 子 高七回卒
関 谷 正 中 高六回卒	酒 井 邦 男 高五回卒	渡 辺 建 夫	学 校 長 渡 辺 建 夫	同 窓 会 長 茂 野 敏 郎 旧中十七回卒	中 村 雅 臣 高十二回卒	田 代 信 雄 高十一回卒	鶴 巻 浩 高十回卒	寺 山 征 子 高十回卒	

編集後記

会報8号を会員の皆様にお届けいたします。新年号の会報はお正月に間に合うよう9月中旬から編集会議を繰り返しながら12月中に発送出来るはこびとなりました。

会報6号から広報部で編集をしておりますが、なかなか思うように出来ません。会報についてお気付きの点など皆様方のご意見ご感想をお聞かせいただければ幸と存じます。

本号発刊に際しご寄稿や広告掲載を賜りました方々には厚く御礼申し上げます。

又、時間と費用をご負担いただきました佐伯支部長、中村事務局長はじめ関係者の皆様に心より感謝いたしております。

今年も支部会員の皆様方の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

広報部スタッフ

沢出赳允	高6回卒	鶴巻 浩	高7回卒
堀 直昭	高8回卒	寺山征子	高10回卒
大橋貞夫	高10回卒	真水道子	高10回卒
深見洋子	高7回卒		

お 知 ら せ

八号の表紙になりました松高旧校舎の絵は、旧中三十二回卒業の鶴巻斉氏が、校舎解体直前に、思い出として、正門よりお描きになった水彩画です。この度その作品をカラー印刷致しましたので、御希望の方には、下記の要領でお分け致します。ハガキで御申込下さい。

1. 絵の大きさ（額寸法）と価格（額共）

大 28 cm×37 cm ￥3,000

小 20 cm×25 cm ￥2,500

廣 告 募 集 !!

会報に掲載する広告収入も東京支部発展への運営資金となりますので、御協力をお願い致します。

社名、社長名、業務内容及び人員募集など所在地、電話番号、写真等原稿をお寄せ下さい。出来れば完全版下でのご寄稿を歓迎します。広告の大きさはタテ5cmヨコ8cmで、5,000円です。その他大きさなど、ご相談下さい。

財務部よりお願い

平成元年度の支部会費を未納の方はお手数でも同封振込用紙にて、ご送金下さいますようお願いいたします。

（支部会計年度は4月から翌年3月までです）

年会費 3,000円

尚、支部会計不如意のおりから、寄付金等、各位の浄財をいくらかでも上乗せして頂ければ幸に存じます。

御宴会に・御会合に

江 戸 前
せん す し
鮮 寿 司

正木美美子（高9回卒）

TEL 800-9720

〒116 東京都荒川区東尾久5-8-6

〒108 東京都港区高輪2-1-24

（株）寿内

村松高等学校同窓会東京支部

電話（03）445-6501

振替 東京 2-136445

但し送料は着払と致します。

広報部よりお願い

会報「臥龍が丘は緑なり」への寄稿をお待ちしています。内容は自由ですができれば学校時代の思い出、郷里に関する事から等書いて頂ければ幸いです。紙面の都合上400字詰原稿用紙2枚～3枚以内で、お願い致します。

尚、同窓会や会報に対するご意見、ご感想もお待ちしております。より良い同窓会支部会報づくりのために、皆様の御協力をお願い申し上げます。次号（第9号）の原稿〆切りは4月末日です。

三条ビジネス株式会社

社長 五十嵐 健

高校6回卒業（村松町出身）

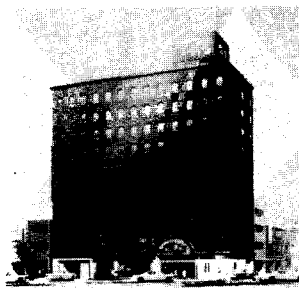
東京都新宿区西新宿1-10-1
安田生命第2ビル7F

東京事業部 東京都江東区佐賀1-17-7
安田信託銀行証券代行部内
TEL 03 820 0346（代）

調布事業部 東京都調布市国領町8-2-15
安田信託銀行東京情報センター内
TEL 03 430 8200（代）

随時女性事務パート社員募集中

ビジネスに 2つのヴィラ

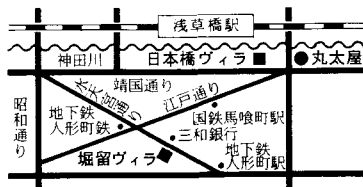


● 日本橋ヴィラ
東京都中央区日本橋馬喰町二二一
電話 (03) 六六八〇八四〇



● 堀留ヴィラ
東京都中央区日本橋堀留
電話 (03) 六六四一〇八四〇

● シングル 6,500 円より (税・サービス料込)



BUSINESS HOTEL **ヴィラ**

丸太屋株式会社

代表取締役副社長 塚 田 勝

(高8回卒)

〒103 東京都中央区東日本橋2-26-8

自 宅 浦和市原山4-23-12

電 話 03-862-0681

商品管理・保管・及び流通加工
御社の分身としてご活用下さい。

京葉梱包倉庫株式会社

代表取締役社長 山 崎 輝 雄 (高8回卒)

本社 ・ 東京都江戸川区篠崎町5-14-23

TEL (03) 670-5221 (代)

FAX (03) 676-1100

第一事業所 東京都江戸川区篠崎町2-189 TEL (03) 678-3601 (代)

第二事業所 東京都江戸川区篠崎町5-14-23 TEL (03) 698-4711 (代)

第三事業所 東京都江戸川区篠崎町4-24-1 TEL (03) 678-9211 (代)

第四事業所 東京都江戸川区篠崎町5-13-18 TEL (03) 678-8791

第五事業所 東京都江戸川区南篠崎町1-2-16 TEL (03) 676-0125

平成2年1月 第8号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

広 報 部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24

(株) 寿内

TEL 03-445-6501

郵便振替 東京 2-136445